人が森を助ける。
森が人を助ける。

Collaborative Forest Restoration with Environmentally Progressive Companies.

環境先進企業との協働の森づくり事業

The Power Of The Forest Report 2013

The Power Of The Forest Report 2013

高知県

森の力レポート2013

高知県 林業振興・環境部 林業環境政策課(環境共生課)
〒780-0850 高知県高知市丸ノ内1−7−52(西庁舎)
tel. 088-821-4586 fax. 088-821-4576
E-mail. 030101@ken.pref.kochi.lg.jp
http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/030101

Illustration:Chinatsu Iwakami

The Power Of The Forest Report 2013

人が森を助ける。森が人を助ける。

協働の森事業とは

森林率日本一の高知県と環境先進企業、森林整備を必要とする市町村の三者がパートナーとなり、「森林の再生」と「地域交流」に取り組む事業です。市町村は企業からの協賛金で森林を整備し、企業は県からCO_2吸収証書を受け取り、県が協定森での交流をサポートします。高知県の森から広がるあかるいできごとをお届けします。

※このレポートは平成23～25年度の特徴的な交流活動を紹介しています。

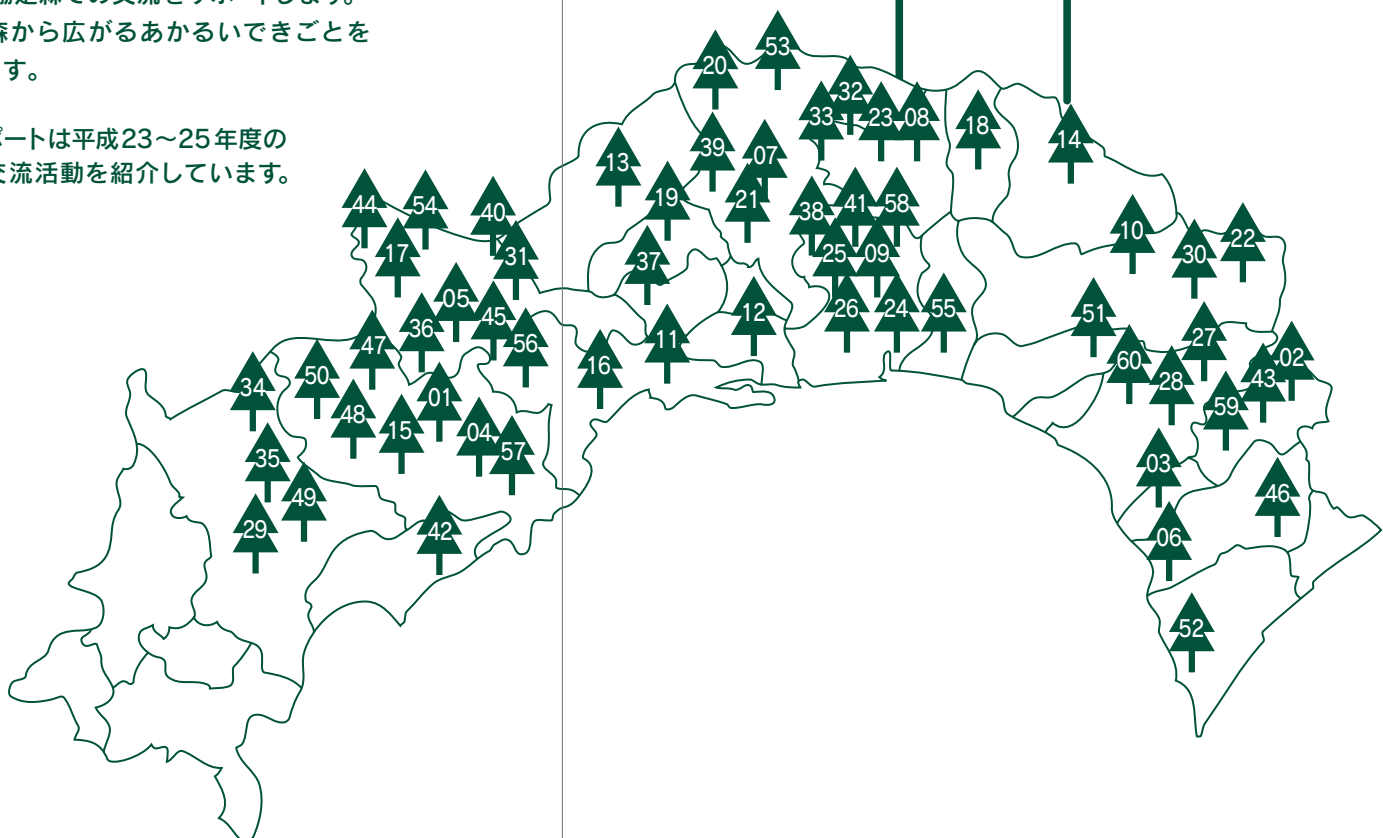
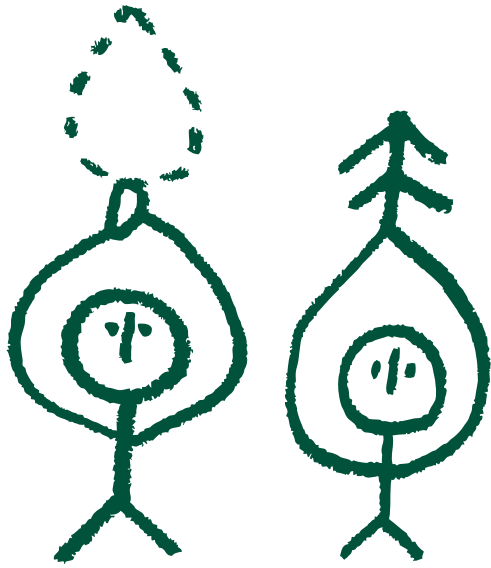
60

高知の森、活動中！

01
四万十町

キリンビール（株）

子どもたちもたくましくなるツアー開催

四万十の森と水を次の世代へ

たっすいがは、いかん！の森

①約334ha ②76.15ha ③平成18年5月24日 ④9年間

おいしいビールづくりに欠かせない、きよらかな水を守るため、キリンビールは「水源の森活動」に取り組んでいます。「たっすいがは、いかん」は同社高知支社のキャッチフレーズ。「たっすい」は高知の方言で「頼りない」「弱々しい」。土佐人の好みと気質を言い表しています。

新緑の頃、四万十町立米奥小学校の学校林にて、一般参加者、キリンビール関連会社、NPO朝霧森林倶楽部、四万十町の総勢80名ほどが春と秋に行われる恒例イベント「山の手入れ体験バスツアー」に参加しました。生い茂る雑木をノコギリで切るごとに林が明るくなっていき、皆さん熱中していました。昼食タイムは地元農協婦人部の皆さんによるカツオのたたき、タケノコの煮物に、ワイワイと舌鼓。昼食後は地元の小学生たちも加わり、すぐ近くの四万十川にバケツリレーでアユの稚魚を放流しました。また河原でこの時期しかできないヒノキの皮剥ぎ体験も行い、参加者からは環境意識が高まった！子どもたちが野菜を食べるようになった！など、多くの反響が寄せられています。

①協定森林面積(累計) ②整備済森林面積 ③初回協定日 ④合計協定期間

02
馬路村

電源開発（株）

村民もたのしめる景観づくり

エネルギーと環境をダムから共生

やなせ水源の森

①約1,409ha ②158.86ha ③平成18年7月25日 ④10年間

銘木として知られ、高知県の県木にも指定されている魚梁瀬（やなせ）杉は、高知県の東部山岳地帯の馬路村魚梁瀬地区一帯に自生する杉を指します。電源開発は魚梁瀬ダムを管理運営して発電事業を行っており、「環境との調和をはかり、地域の信頼に生きる」の企業理念の下、地域とエネルギーと環境の共生をめざす人々との交流に力を入れています。

早春の頃、電源開発、高知県、馬路村、奈半利川流域町村である北川村、奈半利町森林組合、林業システムを作る第3セクターのエコアス馬路村の合計54名で交流イベントを行いました。小石川の渓流にコナラ、イロハモミジ、ヤマザクラなど広葉樹を植栽しました。また、間伐作業も実施し、大木が倒れる度に、歓声が上がっていました。活動後は馬路村の特産品と新鮮な食材による昼食会。企業と地域のつながりを深めながら、水源の森を守る取組を継続していきたいと活発な意見が出されていました。

03
安田町

電源開発（株）

中学生も森とダムの共生を体感

魚梁瀬から土佐湾へ

清流安田川を育む森

①約812ha ② 41.38ha ③平成20年6月24日④10年間

安田町は高知県の東部に位置し、南は土佐湾に面し、まちの中心部を安田川が流れています。安田川を登ると北の馬路村の魚梁瀬ダムへと繋がっていきます。このダムを管理運営する電源開発は、ダムから流れ出る安田川を見守るため、馬路村に続き、安田町ともパートナーズ協定を結びました。

晩秋の頃、安田町にて地元の安田中学校２年生17名と電源開発、高知県森林整備公社、高知県安芸林業事務所、安田町、高知県の総勢41名で交流会が行われました。中学生はノコギリでの間伐作業は初体験で苦労していましたが、木が倒れた時の爽快感に、歓声が上がっていました。

①協定森林面積(累計) ②整備済森林面積 ③初回協定日 ④合計協定期間

04
四万十町

四国電力（株）

地元高校生達といっしょに学んでいます

森の力で循環する水エネルギー

四万十
よんでんの森

①約375ha ②47.99ha ③平成18年9月8日 ④ 8年間

四国電力は四国の急峻な地形を活かし、58ヶ所の水力発電所を稼働させていますが、その半数以上が高知県にあります。水の循環に重要な役割を果たしている森林を、地域の皆さんといっしょに守っていきたいと、協定林（四万十町）で環境教育・森林学習、森林保全活動を実施し、地元の学校や住民の方々との交流を深めています。

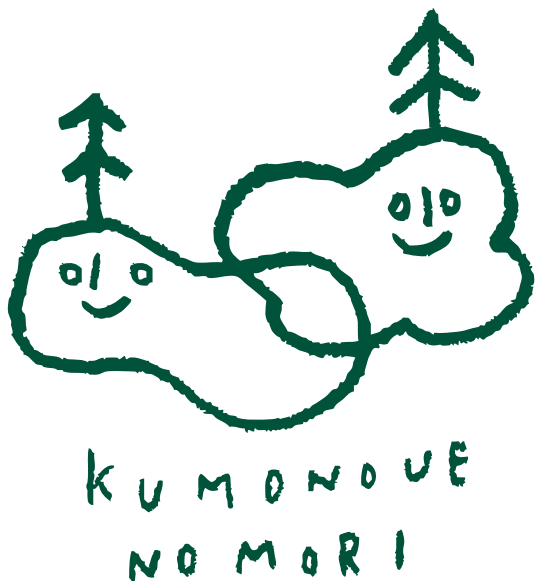
新緑の頃、四万十町瀬里轟山で、四国電力、窪川高校と四万十高校の1年生、NPO朝霧森林クラブ、四万十町、同町森林組合、高知県の総勢104名が参加し、森林整備体験学習を行いました。班ごとに分かれ、四国電力の皆さんとシャベルや鎌、鍬などを使い、四万十川沿いのキャンプ場「リバーパーク轟」の斜面で下草刈りを行い、桜の木を植樹しました。シイタケ菌打ち体験では、森林組合職員、四電社員、四万十町職員が手分けして高校生に作業の見本を見せては熱心に指導をしていました。肉厚のシイタケは四万十町の特産品で、菌を打つホダ木も大迫力。NPO朝霧森林クラブの方から「森のはなし」も聞き、森林の大切さについて理解を深めました。

05

矢崎総業（株）

檮原町

癒し効果のある森林セラピーロードを整備

雲の上の町は共同環境開発の先進地

“もったいない” 未来に夢をつなぐ森

①約24,943ha ②45.30ha ③平成18年10月24日④10年間

標高の高さから「雲の上の町」と称される檮原町。四万十川の源流域に位置し緑深い山々に囲まれた檮原町内では、使用する電力の約2割を太陽光や風力、水力など再生可能エネルギーでまかなっています。一方、矢崎総業は創業者矢崎貞美氏によって徹底されてきた「モノを大事にする」「もったいないことをしない」という精神を持つ企業。間伐材や端材から作る木質ペレットを熱源とした冷暖房機を開発、檮原町に導入しています。また共同で癒やし効果のある森林セラピーロードを整備しています。

昭和の日（旧みどりの日）、矢崎総業を中心とした四国部品などの関連会社の方と日本道路、四国クリエイト協会といった檮原町との協働の森パートナー企業の方など、総勢200名が交流会に参加しました。檮原町宮野々の「矢崎の森」での1時間程の広葉樹林の下草刈り、間伐作業の後、森林セラピーロードを散策。大自然の中で鳥のさえずりを聞きながら癒しの時間を楽しみました。最後の「矢崎の森」産ハチミツ争奪ジャンケン大会では子どもたちの歓声が響いていました。

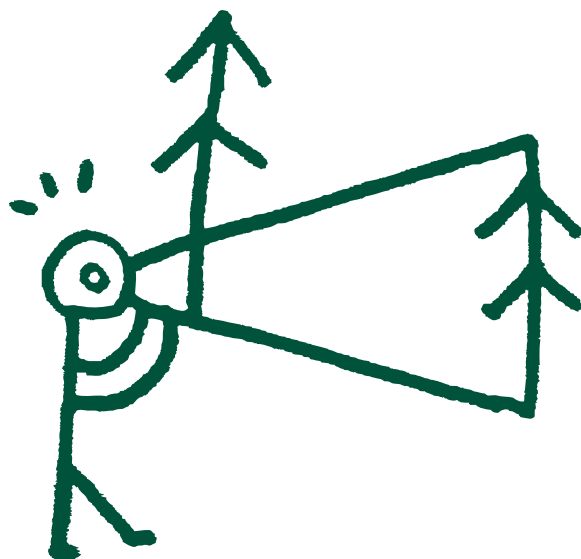
①協定森林面積（累計） ②整備済森林面積 ③初回協定日 ④合計協定期間

06

日本たばこ産業（株）（JT）

奈半利町

自然の繋がりを実感

目指すは「山・川・海」の保全

JTの森 奈半利 サンゴを守る森

①約362ha ②51.03ha ③平成18年11月1日 ④10年間

奈半利町は高知県東部に位置し、北は野根山に続く峰が、南は土佐湾が広がり、山海の資源が豊かな土地です。協定林は、海に流れ出る奈半利の2つの河川流域に位置し、この場所で森林を保全し保水力を高めることは、川の水質を守り、海の自然環境とサンゴなどの海洋生物の生育環境保全にもつながっています。

秋深まる頃、奈半利町、同町郷分森林組合、地元の漁協や淡水漁協、高知県、JTグループ社員と家族など約120名が参加し、「森づくりの日」体験イベントを開催しました。午前は、山、川、海コースに分かれて間伐作業、清掃作業を実施し、清掃後にはサンゴの視察、鮎の産卵床を見学しました。午後は、奈半利でサンゴの保全活動を行っている小笠原さんによる「森の課外教室」で最近は、世界的に温暖化の影響等でサンゴが危機に直面しているが奈半利海岸沖では、山、川、海の保全活動が連携し、自然のサイクルがうまく循環している等の講話がありました。参加者は、自然環境の繋がりを十分に実感できた1日となりました。

07
いの町

太陽石油(株)

子どもがわくわくする森づくり
太陽のように明るい森にしたい

いの町
太陽が育む森

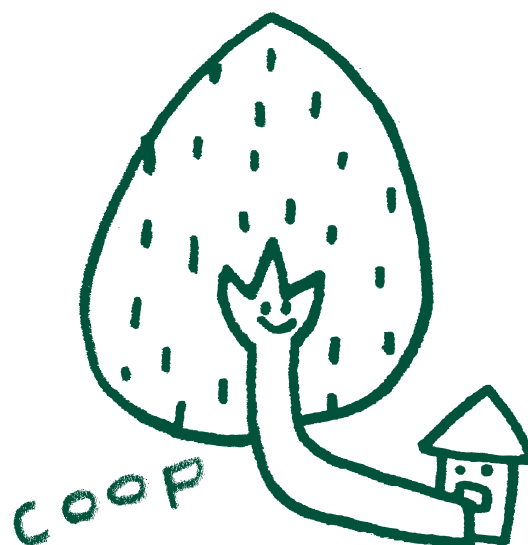
①約155ha ②45.48ha ③平成18年11月9日 ④11年間

太陽石油では、ブランド「SOLATO」のスローガン「この星と人のチカラに。」という想いのもと、総合エネルギー企業として、環境との共生、地域密着を念頭において森林再生にも取り組んでいます。

さわやかな秋晴れの日、いの町の協定林にて、太陽石油グループの社員と家族、また、そのOB、高知中央森林組合、高知県、いの町から約40名が参加し、森林ボランティア作業が行われました。午前中は高知中央森林組合の指導のもと、森に太陽の光を取り込むことを目的に樹齢15年程度のヒノキを間伐し、林内作業車、自動枝打ち機の実演を行いました。初めて見る機械の迫力に歓声と驚きの声が上がっていました。
昼食は、地元女性グループによる創作田舎料理を堪能。午後からは、チェーンソーの操作体験、炭火で焼くアウトドアクッキングでバームクーヘン作り、野鳥の巣箱や鉛筆立てを作る木工教室、森林を散策するトレッキングを行いました。
参加者からは雄大な程野の滝を間近で見て疲れが吹き飛んだ！想像以上の出来映えのバームクーヘンができた！など、森を身近に感じた明るい声が届いています。

①協定森林面積(累計) ②整備済森林面積 ③初回協定日 ④合計協定期間

08
土佐町

生活協同組合連合会
コープ自然派事業連合

コープ自然派の森

①約49ha ②19.10ha ③平成19年2月14日 ④9年間

コープ自然派と土佐町とは、無農薬、減農薬栽培米である吉野川源流米を産直米として取り扱うことを通して、田植えや稲刈りに同組合員が加わるなど十数年前から産地交流をしています。また同町は優れた国産材である「れいほく材」の産地としても知られ、コープ自然派はその木材を使用した家づくりを進めています。

新秋の頃、土佐町瀬戸一の谷山にて、コープ自然派、土佐町、森林組合、高知県の40名が参加し、間伐体験交流会が行われました。現場は植樹から20～30年のスギがうっそうと茂り、日も入らないような稲村ダム周辺の森林。5班に分かれて間伐を行いましたが、初めて木を切る人も多く、実際に間伐する難しさを体験しました。各班5～6本ほど切り倒した頃には光が差し込む森になり、苦労した分大きな喜びを味わいました。間伐したスギの輪切りを記念に持ち帰った参加者は、来年もここで参加したいと、充実した表情でした。

09 高知市

（株）四国銀行

自然とのたのしいふれあい

森の大切さを小学生につたえたい

未来を鏡に
～四銀絆の森

①約57ha ②11.38ha ③平成19年3月15日 ④10年間

「鏡の如し」と土佐の殿様に詠われた鏡川は、源流から河口まで高知市に属し、夏の河口ではたくさんの市民がふれあう鏡川まつりや納涼花火大会の場として親しまれています。「四銀絆の森」はその鏡川の上流にあります。四国銀行は「かけがえのない環境を未来に引き継ぐ」方針のもと、継続して環境保全活動に取り組んでおり、平成21年から高知市の職員で結成した「こうち森林救援隊」と協働での間伐も行っています。

澄み渡る秋の頃、高知市鏡のキャンプ場「吉原ふれあいの里」にて四国銀行、朝倉第二小学校の親子、こうち森林救援隊、高知市、地元の皆さん、総勢約80名が参加し、四銀絆の森交流会が行われました。アジサイの苗木の植樹に始まり、木工体験では、小さな竹筒をセミに見立ててつくる“じーじーぜみ”や、木製のかえるストラップを全員で作りました。参加した小学生たちは口々に「楽しかった」と話し、次回の参加を約束している児童もいました。子どもたちにとって楽しく自然と触れあえる貴重な機会が広がっています。

①協定森林面積(累計) ②整備済森林面積 ③初回協定日 ④合計協定期間

10 香美市

ルネサスエレクトロニクス（株）

地元を愛する事業所が活躍

毎年秋に「ルネサスフォレストランド」開催

ルネサスの森

①約63ha ②22.28ha ③平成19年3月26日 ④7年間

半導体の総合会社、ルネサスエレクトロニクスの高知事業所では「高知地区の美しい環境を守り続けるため、青い空、澄んだ空気、豊かな緑を大切に私たちは行動します」のスローガンの下、事業所の省エネルギーや廃棄物削減、地域の水源涵養林植樹、事業所周辺の美化活動など、社会貢献活動を行っています。平成18年度には高知県リサイクル製品等認定制度において、「環境配慮型事業所」に認定されるなど、以前から環境意識の高い企業です。

毎年秋に開催される交流事業「ルネサスフォレストランド2013」が今年も香美市の「ルネサスの森」で行われ、ルネサスエレクトロニクス高知事業所社員と家族、香美市、同市森林組合、高知県より約40名が参加しました。小雨で足もとの悪い中チェーンソーを使用しましたが、7回目の間伐作業とあって手慣れた様子で作業を進めていました。午後は同市美良布の保健福祉センター香北で昼食後、全員でビンゴ大会を行いました。参加者は今年も間伐作業や森林学習を通じて、森林の役割について理解を深めました。

11
須崎市

住友大阪セメント（株）

工場と森から環境にやさしい循環を

間伐材がバイオマス燃料に

住友大阪セメント ～須崎 未来を拓く森

①約33,542ha ②195.00ha ③平成19年4月20日 ④8年間

住友大阪セメント高知工場は、高知県のほぼ中央にある天然の良港「須崎港」に面しています。パートナーズ協定は創業百周年の記念事業の一環として締結され、セメント業界では初の協定事例となりました。また、平成19年10月からは県の木質資源エネルギー活用委託事業により、森林の整備によって発生する間伐材を木質バイオマス燃料として、高知工場にある石炭火力発電設備で石炭と混焼することによってCO_2削減をはかり、地球温暖化対策のみならず、森林が整備されるとともに、新たな雇用も生まれました。

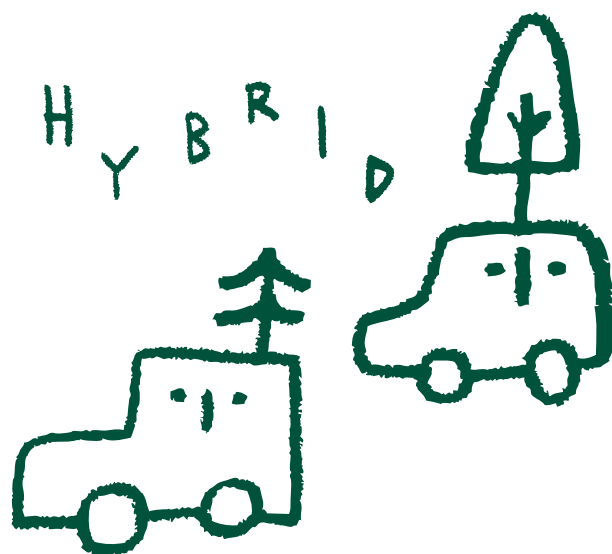
初冬の頃、住友大阪セメントの職員、地元住民、須崎地区森林組合、市職員等が参加し、交流事業が行われました。協定森林内の鋸による間伐体験を実施した後、場所を移動し、簡単な踏台を作製する木工教室を開催。地元漁師が調理した昼食も好評で、地元市民の方と絆を深めました。

①協定森林面積（累計） ②整備済森林面積 ③初回協定日 ④合計協定期間

12
土佐市

高知トヨペット（株）

ハイブリッド車ってかっこいい

中学生にハッケンの種まき

高知トヨペットの森

①約49ha ② 10.80ha ③平成19年5月7日 ④9年間

高知トヨペットは昭和51年から、地域に根差した環境保全・緑化活動として「ふれあいグリーンキャンペーン」事業に取り組んでおり、土佐市内の小中学校の児童・生徒を対象に森林環境学習や間伐体験などの交流活動を展開しています。

若葉の頃、恒例のふれあいグリーンキャンペーンが行われ、土佐南中学校2年生34人と高知トヨペット、土佐市、高知県の関係者が交流しました。準ミスインターナショナル2013日本代表の曽田彩乃さんより記念樹の桜の苗木と目録の贈呈の後、高知県中央西林業事務所職員が講義を行い、高知県産の木材が、広島県の厳島神社や京都の清水寺の修復などにも使用されていることや、質が良く韓国へ輸出されるようになったこと、土佐市内の製紙工場で木質バイオマスが活用されていることなどを伝えました。

○×形式の「森林クイズ」、家庭で充電して走行できるプラグインハイブリッド車の試乗も行われ、中学生にとって新しい発見が多い交流となりました。

13
川崎重工業（株）
仁淀川町

新入社員研修は仁淀ブルーを2泊3日堪能
共同でバイオマス実験も

Kawasaki
ー仁淀川憩いの森

①約126ha ②20.20ha ③平成19年5月18日 ④9年間

高知県の北西部、清流で知られる仁淀川の上流域に位置し、町の面積の90％が山林の仁淀川町。その地域特性から、仁淀川町にて行われたバイオマス実験事業などを通じて、仁淀川町と川崎重工業は関係を深めるとともに、自然と共生する社会の実現をテーマに森林の再生に取り組んでいます。また、川崎重工業の社員研修では、間伐体験などを通して、地域住民との交流を図る活動も行っています。

今回も、同社の新入社員等約45名が仁淀川町に訪れ、２泊３日の新入社員研修が行われました。協定林でのノコギリを使った間伐作業、仁淀川町の自然を満喫しながらの7km登山訓練、風力発電公園、石灰石開発場の視察など、豊富なメニューをこなしました。

２日目の夕食は地元の食材を使い、地域の方に教わりながら一緒に準備して交流しました。田楽やアメゴの塩焼きなどできたての田舎料理に大満足の様子でした。

①協定森林面積（累計）②整備済森林面積 ③初回協定日 ④合計協定期間

14
三菱UFJ信託銀行（株）
大豊町

大杉のように想いをつないでいきます
森は未来へのおくりもの

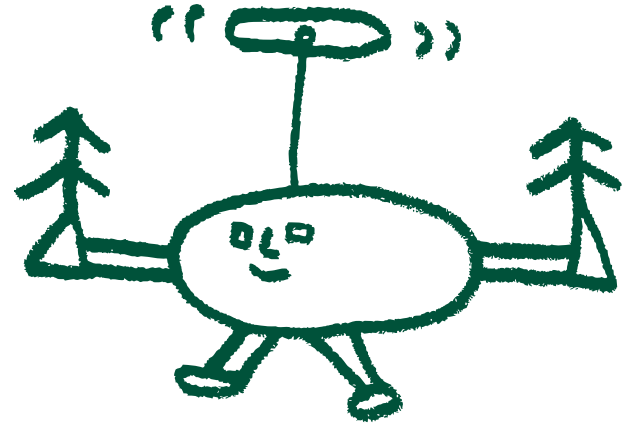
三菱UFJ信託・
「想い」をつなぐ森

①約80ha ②69.95ha ③平成19年6月14日 ④9年間

三菱UFJ信託銀行は、世代間に「想い」をつなぎ、次世代に「環境」をつなぎたいと、協働の森を「『想い』をつなぐ森」と名付けました。大豊町は四国山脈のほぼ中心に位置し、長い間人の想いをみつめてきた推定樹齢3,000年、日本一の大杉とされる「杉の大杉」が有名です。

暮秋の頃、同銀行員とご家族、BS-TBS「未来へのおくりもの」取材クルー、立川体験交流の会、森林組合、大豊町、高知県など総勢約80名が参加し、交流会が行われました。あいにくの雨で間伐体験は中止になりましたが、重要文化財の旧立川番所院にて地元「立川体験交流の会」による愉快でためになる紙芝居風の「山のお話」を聞きました。昼食は「山の幸満載お弁当」に立川そばが付いて、地のものをたっぷり堪能。午後は３グループに分かれて「餅つき」「柚子搾り」「木工作品づくり」を体験しました。地元の方と味わう普段できない体験は、親子で参加した方にとっても大切な思い出になったようです。

15
四万十町

コクヨグループ

結ばれる森と人と経済
間伐材でオリジナル商品も開発

コクヨ
ー四万十　結の森

①約8,755ha ②534.77ha ③平成19年7月23日 ④ 9年間

高知県西部、清流四万十川の中流域に「結の森」はあります。かつて農山村では田植えなどで地域の人々が互いに助け合って共同作業を行う習慣を「結（ゆい）」と呼んでいました。人と人、人と自然のつながりを連鎖させ、環境と経済の好循環を目指し、この森は「結の森」と名付けられました。
森の恵みから商品を作ってきたコクヨグループの子会社でオフィス通販を行うカウネットでは、協定林で間伐されたヒノキ材を使用したオリジナル商品を開発し、売上の一部を緑の募金などに寄付しています。

毎年10月の中旬頃には、間伐の効果を測るモニタリング調査が開かれ、コクヨ、四万十高校、四万十町、同町森林組合、高知県から有志メンバーが参加しています。
モニタリング調査では、間伐したエリアの植生調査と四万十川の水質調査を行います。調査の翌日には、高校生からモニタリング調査の結果について報告してもらい、間伐の効果がどのように表れてきているか、確認をしています。

①協定森林面積(累計) ②整備済森林面積 ③初回協定日 ④合計協定期間

16
中土佐町

富士通グループ

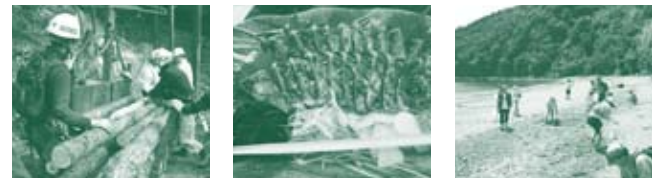
カツオも森も元気です
先進技術で植生マッピングも作成中

富士通グループ・
中土佐　黒潮の森

①約79ha ②28.50ha ③平成19年10月22日 ④ 6年間

高知県西の久礼湾に面する中土佐町は、カツオの一本釣りで海の町として有名ですが、港町は海抜300m以上の山々に囲まれています。
富士通グループと同町は、共同でハイパースペクトルカメラによる植生マッピング技術の実証実験を行いました。上空からヘリコプターに搭載した特殊カメラで森林を撮影し、人が立ち入るのが困難な場所でも樹種の分布や植生状況を高精度かつ短時間で判別できる技術です。CO_2吸収量の正確な把握など、幅広い活用が期待されます。

夏の日差しの中、富士通グループ社員家族、中土佐町、須崎地区森林組合、高知県から45名が参加し、環境ツアーが行われました。まずは1時間程度の間伐体験。最初は恐る恐る、慣れてくると熱中して汗を流しました。その後、黒潮本陣に移動し、その場で藁焼きしたカツオで昼食。温泉や汐湯に浸かり、太平洋を臨む景色を堪能しました。須崎地区森林組合に場所を移してからは製材端材を活用した「３R」プランター作りを行い、楽しみの詰まった環境ツアーとなりました。

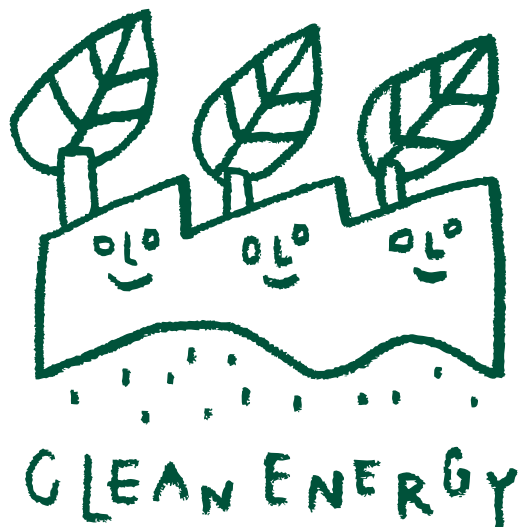
17
日本道路（株）
梼原町

地元、土佐牛バーベキューも
ちいさな集落に明るい森を

日本道路の森
①約60ha ②8.83ha ③平成20年2月13日 ④ 6年間

日本道路は、事業による汚染の予防、資源の有効活用、環境マネジメントシステムの運営にも力を入れています。協定林がある仲間（なかいだ）部落は、梼原町内でも戸数12戸と大変小さな集落ですが、地域に根をおろした交流会が地域の方にとって年中行事になっており、住民は心待ちにしています。

今年もさわやかな好季節の秋に協定林で交流会が行われ、日本道路、梼原町職員、森林組合、高知県から32名が参加しました。前日は快晴の中、梼原町の環境モデル都市に関する施設を見学した日本道路の社員の皆さんでしたが、当日は残念ながら、間伐体験には危険な雨量。関係者によるデモンストレーションを道から見学しました。仲間公民館隣の昼食会場にて、地域の方々が用意してくれた手料理と地元食材のバーベキューに舌鼓を打ちながら交流を深めました。途中、力のない女性でも簡単に薪割りができる優れ物の自動薪割り器が登場し、楽しく薪割りも体験。閉会式後は皆さん名残惜しそうに来年の再会を約束しました。

18
三愛石油（株）
本山町

研修後には社員の顔つきも変わります
四国山脈の真ん中から元気に

三愛石油オブリの森
①約73ha ②44ha ③平成20年5月29日 ④ 6年間

三愛石油は自然の恵みである化石燃料を取り扱う企業の責務として自然環境の保護とともに、天然ガス、太陽光発電などの環境配慮型製品も取り扱っています。本山町は四国山脈の中央部に位置し、町土の89%が急傾斜の山林で、中間部を流れる吉野川の沿岸に所々狭い河岸平地があり、集落や耕地は標高250m～740mの間に点在しており、奥深い山地にあります。

秋風の吹く頃、三愛石油の体験型環境研修の一環として交流が協定林で行われ、三愛石油グループ社員、本山町関係者、高知県職員、約50名が参加しました。朝から雨でしたが、午前中は旧沢ヶ内小学校を改修した清流館で竹箸作り、苔玉作りを楽しみました。昼食会では汗見川生活改善グループの手作りシカ肉コロッケ、手打ちそば、地元野菜てんぷらなど、おもてなし料理を味わいました。午後からは作業道を登り、手鋸による間伐作業を行いました。間伐材はチェーンソーで輪切りにして記念のコースターに。お土産も思い出もたっぷりの交流となりました。

①協定森林面積（累計）②整備済森林面積 ③初回協定日 ④合計協定期間

19
越知町

（株）ツムラ

中学生にも薬草を身近に

森から健やかな薬草・薬木づくり

土佐ツムラの森

①約115ha ②19.01ha ③平成20年6月9日 ④6年間

漢方薬メーカーのツムラと越知町は、漢方薬の原料である生薬の栽培を通じて昭和61年頃から関わりがありました。平成2年に設立されたヒューマンライフ土佐は同町の生薬生産農家組合で、現在は250軒の農家が登録しています。この協定で4者は共に生薬栽培地での良質な水源確保、地元の仁淀川系の水源保全を目指しています。

初秋の頃、農事組合法人ヒューマンライフ土佐の駄馬薬草園で交流会が越知中学校3年生の総合学習の一環として開催され、同中学生、ツムラ、越知町、高知県の約58名が参加しました。この薬草園では60種類以上の薬草が育てられていますが、この日はそのうち18種類の薬草を採取する体験を行いました。資料写真を参考にしながら50分ほど歩き回って薬草を採取し、めあての薬草かを答え合わせをします。ツムラの社員から、薬として使う部位や効能なども教えてもらい、中学生達は身近にある植物にいろいろな効能があることを知り、驚きながら勉強していました。

①協定森林面積(累計) ②整備済森林面積 ③初回協定日 ④合計協定期間

20
いの町

西日本高速道路（株）四国支社
西日本高速道路サービス・ホールディングス（株）

四国各地から百名以上が集合

道路も森も人をつなぎます

つなぎの森 四国いの町

①約112ha ②24.12ha ③平成20年8月4日 ④6年間

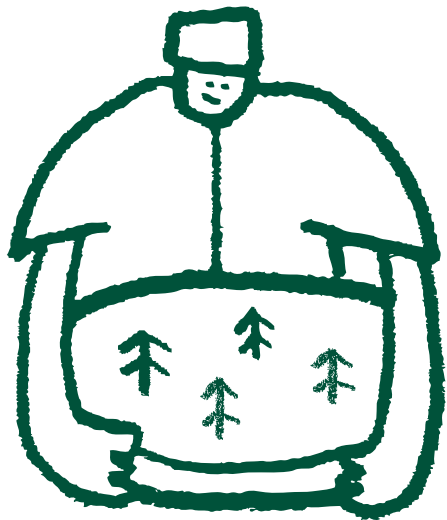
西日本高速道路は協定林を地域社会と自社、健全な環境と子供たち、社会全体の持続的発展を「つなぐ」思いを込めて「つなぎの森」と命名しました。その協定林は四国の水瓶と呼ばれたくさんの命をつなぐ、早明浦ダムの上流に位置しています。

秋晴れの中、7回目となる交流イベントを樹齢数百年の木々が立ち並ぶ自然林内の野外施設『木の根ふれあいの森』で開催し、協定企業とグループ会社の社員とその家族、いの町、土佐の森救援隊、高知県から総勢126名が参加しました。今回は森林整備と環境学習を行い、森林整備では協定林で草刈りやノコギリでの間伐を体験し、土佐の森救援隊によるチェーンソー作業を見学しました。環境学習ではクイズを交えた森林の役割等についての講演を受け、その後、間伐材でのスプーンづくりや火起こし体験、数珠玉鉄砲の工作と的当てゲームなどのイベントで大いに盛り上がりました。また、昼食は地元婦人会の皆さん手作りの田舎料理とカレーをご提供いただき、地元との交流を深めることができました。大人も子どもも自然を体験、満喫し充実した一日となりました。

21
いの町

(株)加寿翁コーポレーション

豊かな自然は土佐料理の源

森からおいしさも育ちます

土佐料理 司
鮎を育む森

①約89ha ②59.54ha ③平成20年8月5日 ④6年間

いの町は高知県のほぼ中央に位置し、北は四国山脈を隔てて愛媛県に隣接し、西方から南方へかけては水質調査で四国一位に輝いた清流・仁淀川が流れ、北方には吉野川の源流が湧き出しています。加寿翁コーポレーションは大正6年から続く土佐料理店「司」を運営しており、森林の再生によって河川環境を改善し、鮎などの豊かな食材を受け継ぐこと、河川環境改善による海資源の育成を目的にパートナーズ協定を結びました。

例年、協定林で交流会が行われ、協定企業、高知県、いの町から約25名が参加します。協定林で手鋸による間伐体験を行った後、仁淀川沿いの道の駅 土佐和紙工芸村に移動し、葉書の紙漉体験、協定林に設置する野鳥巣箱の木工体験をします。昼食ではバーベキューを堪能し、伐採の大変さと間伐の大切さ、自然の中の楽しみを体感し、研修を終了します。

22
香美市

高知工科大学／高知工科大学後援会

学生も職員も住民も

地域連携で森を見回っています

高知工科大学
一物部川共生の森

①約38ha ②28.14ha ③平成20年9月8日 ④6年間

香美市にある高知工科大学と同大学後援会は「地域に開かれた大学」として開学10周年を機に、香美市とパートナーズ協定を結びました。後援会協賛金を市有林の整備に充てると共に、学生・教職員ともに地域住民と協働し、同大学の目の前を流れる物部川流域の自然環境保全のための様々な活動を進めています。

秋も一段と深まる頃、同大学生・職員16名が、香美市物部町にある森林で間伐作業を体験しました。当日は香美市や高知県の職員も参加し、物部森林組合の方々の指導のもと、慣れないチェーンソーの扱いに注意しながら作業を行いました。午後からは、伐採された木材の集出荷施設「物部森林ストックヤード」を見学し、県産木材の流通の仕組み等についても学びました。参加した学生たちは初めての体験に緊張しつつも、達成感を味わうとともに、森林保全の重要性を改めて実感した様子でした。

①協定森林面積(累計) ②整備済森林面積 ③初回協定日 ④合計協定期間

23

土佐町

一般社団法人高知県トラック協会

トラックの日は森づくりの日

国内輸送の9割がトラックです

土佐町とらっくの森

①約70ha ②75.20ha ③平成20年10月14日 ④7年間

10月9日はトラックの日。トラック協会は毎年この日の前後に「トラックの日の森づくり」を実施しています。土佐町は昔から「れいほく材」の産地で、江戸時代には土佐藩の財源として管理の行き届いた山が多くあり、 中心部が赤色を帯びた「土佐の赤杉」が有名です。

秋空の下、トラック協会会員事業所の家族、一般参加、地蔵寺地区のみなさん、土佐町、高知県から約130名が同町の地蔵寺笑学校に集い、「山のお手入れ体験学習」が行われました。午前中は間伐体験。現場は込み入ったヒノキの人工林で、森林組合や林業事務所の職員の方の指導のもと、ノコギリで作業しました。昼食は地元の方が用意してくれた地元食材をふんだんに使ったあたたかい手料理を堪能。地域の方々との交流を深め、笑顔の絶えない交流会になりました。

①協定森林面積(累計) ②整備済森林面積 ③初回協定日 ④合計協定期間

24

高知市

NTT西日本グループ

①約63ha ②28.05ha ③平成20年11月11日 ④6年間

地域電気通信事業は、さまざまな自然環境に支えられて活動しています。多くのエネルギーを使用しているNTTは、西日本各地で「にしのみどり―みどりいっぱいプロジェクト―」と名づけた生物多様性保全活動に平成24年から取り組んでおり、平成20年に結ばれた本協定も活動の一環として継続され、毎年春と秋に交流会が開かれています。

高知市中心街の真北にある土佐山高川地区で初夏の頃、NTT西日本四国、高知市森林組合、高知市、高知県から約50名が参加し、協定林で森林組合の職員の指導のもと間伐体験をしました。現地の杉は直径30cm位と大きく、協力し合って汗を流しました。雨が強まる中、協定林近くのキャンプ場にテントを張って空き缶での炭焼き体験も行われ、参加者のほとんどが初めての体験に興味津々。お昼は森林組合のトラックについているクレーンや立ち木を利用した即席のテントの下、バーベキューを行い交流を深めました。雨の中でも力いっぱい木と触れ合える交流会でした。

25
高知市

(株)オンワードホールディングス

森から世界へ虹をかける
服だって森に還る時代

土佐山 オンワード "虹の森"

①約45ha ②28.87ha ③平成20年11月14日 ④6年間

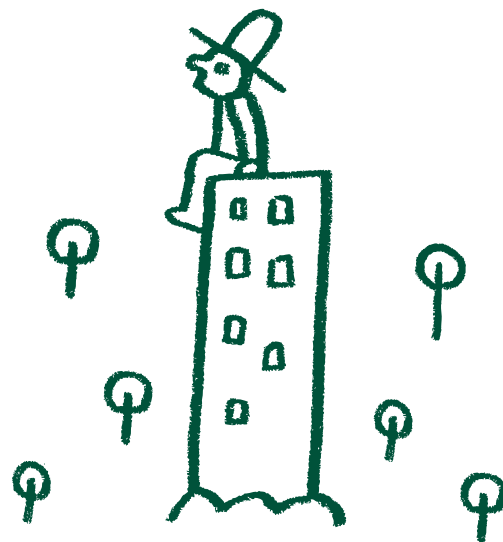
鏡川源流の高知市土佐山地区の豊かな森が、世界で事業活動を行っているオンワードグループの各拠点に向けた "虹の架け橋" となることを願い、「土佐山オンワード "虹の森"」は始動しました。同グループは、生活文化企業として「この地球(ほし)を想う。この服をまとう。」を環境コンセプトに、ご使用後の衣料をお引き取りし、リサイクル&リユースを進める活動や、土に埋めると有害物質を出すことなく大地に還るジャケットの販売など地球環境の保全に取り組んでいます。

交流会は新入社員研修を兼ねた春と秋の年2回行われており、今年の秋も、オンワード樫山、高知市、高知市森林組合、高知県の30名が参加して行われました。間伐体験は土佐山東川地区の協定森林で森林組合の職員の指導のもと、チェーンソーとノコギリを使い、3班に分かれて作業しました。直径30cm以上の杉の間伐に奮闘しましたが、肌寒い現場では良い運動になりました。昼食は、オーベルジュ土佐山の近くの広場で地元食材をふんだんに使ったお弁当やあたたかいお椀をいただきながら、和気あいあいと交流を深め、来春の再会を約束しました。

①協定森林面積(累計) ②整備済森林面積 ③初回協定日 ④合計協定期間

26
高知市

商店街振興組合 原宿表参道欅会

表参道イルミネーションをカーボン・オフセット
高知の森を東京でアピールしています

原宿表参道欅会 元氣の森

①約47ha ②22.96ha ③平成20年11月29日 ④6年間

原宿表参道欅会は昭和48年、商店や企業、住民とが一体となって表参道の生活環境向上と商業の健全な発展を目指すことを目的に発足し、商店街内外において商業振興と地域環境の両面に取り組んでいます。高知県とは平成13年に始まった「原宿表参道元氣祭スーパーよさこい」を通して深いつながりがあり、本協定では県の間伐材商品PRを中心に、活動しています。

例年年末年始、表参道の欅並木にLEDを飾る「表参道イルミネーション」が街を彩りますが、平成22年には表参道90周年を記念し、このイベントにかかる電気使用量を本県の森林吸収オフセット・クレジットによってオフセット(埋め合わせ)する試みが行われ、全国的に有名なイベントを通じて、本県の地球温暖化対策事業を広くPRしました。

また毎年8月末に表参道で開催され、約80万人が動員される「スーパーよさこい」で、県産ヒノキを使ったメダルを踊り子に手渡したり、欅会の理事会で県間伐材を使った夫婦箸を配るなど、高知の森を全国的に身近なものにする取り組みを続けています。

27
安芸市
三菱商事（株）

創始者の思いを受け継ぐ森
ゆかりの土地から地球環境保全

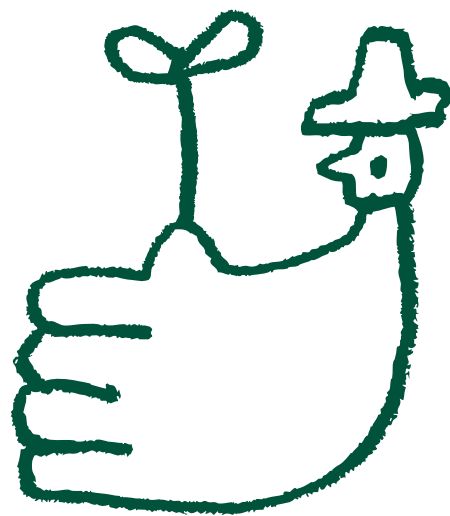
三菱商事 千年の森

①約514ha ②54.89ha ③平成21年2月3日 ④9年間

三菱商事はグローバル企業として海外の森林保全活動を行ってきましたが、国内で初めての保全活動として、創業者岩崎彌太郎の出身地である安芸市と協働の森パートナーズ協定を締結しました。市内には彌太郎ゆかりの地がたくさんあり、三菱グループの源流を見る事ができます。協定林のある妙見山は、弥太郎が幼少期からよく登り、頂上の星神社で参拝したと言われています。

さわやかな秋空の下、5回目となるボランティアを実施し、三菱商事グループの社員と家族、高知東部森林組合、安芸市、高知県から総勢53名が参加し、安芸市妙見山で交流会が行われました。星神社を社員全員で参拝した後、妙見山中腹の協定林に移動し丸太でできたベンチで腹ごしらえ。間伐は班に分かれ、それぞれ森林組合の指導員に従いノコギリを使い作業を行いました。森林内はあらかじめ森林組合が整備した歩道のおかげで移動も安心。間伐終了後の森には光が差し込むようになり、気分爽快です。夜には別会場で交流会が行われ、お互いに親睦を深めました。

28
安芸市
東京海上日動火災保険（株）

創立130周年記念事業
海も臨める安芸の森を豊かに

東京海上日動 未来への森

①約47ha ②24.74ha ③平成21年5月15日 ④5年間

東京海上日動は、創立130周年を記念し、2009年5月に高知県、安芸市、高知東部森林組合と5年間の「パートナーズ協定」を締結しました。それ以降、毎年秋に、東京海上グループの社員、代理店、その家族たちが安芸市の「東京海上日動 未来への森」を訪れる「間伐体験ツアー」を実施しています。

気持ちのいい秋晴れの中、東京海上日動からの参加者55名のほか、高知県、高知東部森林組合、安芸市のみなさん総勢76名による交流体験活動が実施されました。土佐湾も臨める東山森林公園内の市有林の間伐や雑木の除伐など、森林組合作業員の方の指導を受けながら汗を流しました。夜の交流会では、よさこい鳴子踊りの披露や参加者全員で踊りの体験をしたり、安芸市の特産品を使った手づくりの郷土料理も堪能。翌日には岩崎弥太郎生家や星神社、岩崎家の菩提寺である閑慶院などゆかりの地を訪れ、三菱グループの歴史や成り立ちを学ぶ機会となりました。また、木質ペレット製造工場や木のおもちゃ工房を見学し、間伐材を活用したものづくりについても学ぶことができました。

①協定森林面積(累計) ②整備済森林面積 ③初回協定日 ④合計協定期間

29
四万十市

日鉄住金環境プラント ソリューションズ（株）

間伐がはかどり清流黒尊川も元気に
資源の循環が仕事です

地球のために未来のために 四万十市NSESの森

①約93ha ②23.91ha ③平成21年8月7日 ④6年間

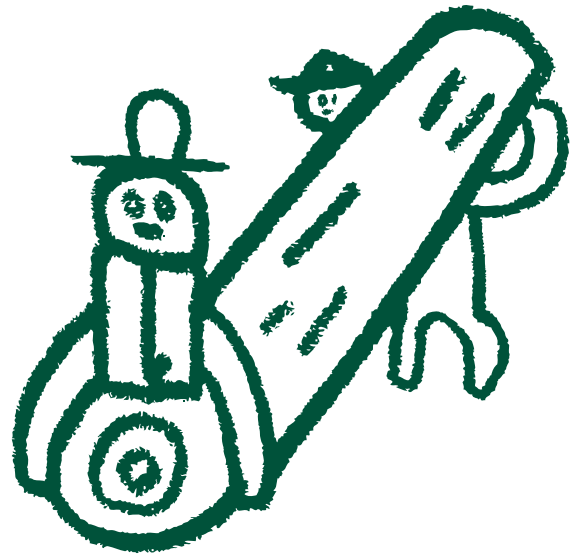
日鉄住金環境プラントソリューションズは、新日鉄住金エンジニアリングが全国に建設する廃棄物のガス化高温溶融処理施設や焼却施設を操業維持管理を行っており、事業自体が資源循環の役割を担う企業です。本協定は四万十市で初となるパートナーズ協定となりました。

両者は初年度から交流を深め、晩秋の頃に四万十市西土佐玖木にある「NSESの森」で、NSES社員、四万十市役所ほか地元関係者、高知県から70名が参加し間伐体験が行われました。当日は天気にも恵まれ、作業は5班に分かれて行われました。直径30cmほどのヒノキをノコギリで倒すのは骨が折れましたが、全員で協力しながら指導員の方を含め、和気あいあいと作業を進め、2時間ほどかけて各班5本ほど間伐しました。イベント当日は近くで黒尊むらまつりが開催されており、紅葉しはじめた木々に囲まれた黒尊川のそばでお弁当を食べ、特設ステージの催し物や餅つき、鮎や猪汁を堪能。ますます交流が深まりました。

①協定森林面積(累計) ②整備済森林面積 ③初回協定日 ④合計協定期間

30
香美市

セントラルグループ

奥物部の秋を満喫
森からも活力ある時代をクリエイト

セントラルグループ 香美市物部の森

①約20ha ②6.00ha ③平成22年2月4日 ④6年間

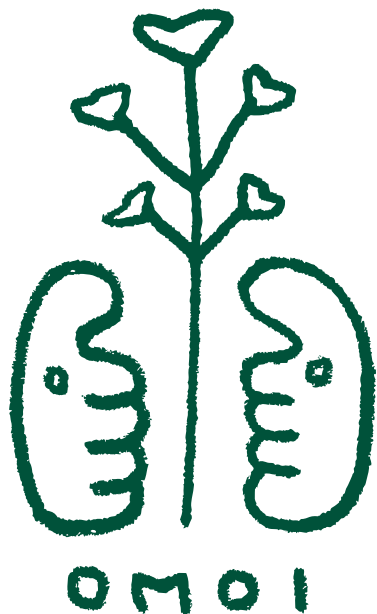
セントラルグループは中四国でのアミューズメント事業や外食産業を展開しています。協定林のある香美市の物部地区は、約95%を山林が占め、同市物部町別府の槇山川源流域に広がる渓谷、べふ峡など、四季折々の自然が楽しめる森があります。

秋も盛りの頃、セントラルグループ、株式会社慶尚の社員とそのご家族など、総勢25名が参加し交流行事が開催されました。白髪山登山口までは香美市のバスに乗車し、西熊渓谷の紅葉を満喫。標高約1,400mに位置する駐車場で開会式を行った後は、みやびの丘に向けての登山開始です。平地では見られないダケカンバやブナ、ミズメの林を、元気な子供たちは小走りで、大人は息を切らしながら山頂に到着しました。山頂は既に落葉し、冬の装いでしたが、眼下に真っ赤な紅葉を楽しむことができました。午後は地元婦人部の指導のもとそば打ち体験をし、地域との交流も深まりました。これまで自然散策や田舎体験が交流の中心でしたが、今後は体験間伐にチャレンジしたいと考えています。

31 津野町

福島ミドリ安全（株）

龍馬脱藩の森

各地で地元の方々と親睦を深めています

龍馬の森（RYOMA FOREST）

①約57ha ②29.47ha ③平成22年3月16日 ④6年間

福島ミドリ安全は安全で効率よい就労環境づくりのための作業服、ヘルメット、安全靴などを取り扱う会社で、カーボン・オフセットされたユニフォームを日本で初めて納入するなど、地球温暖化対策に積極的に取り組んでいます。平成24年には東日本大震災で被災した地区の木造仮設住宅を建設する業者に津野町産を含むオフセット・クレジットを寄付し、仮設住宅の端材をクレジット付き日本酒ギフトボックスに生まれ変わらせて環境商品を販売するビジネスモデルで賞も受賞しました。

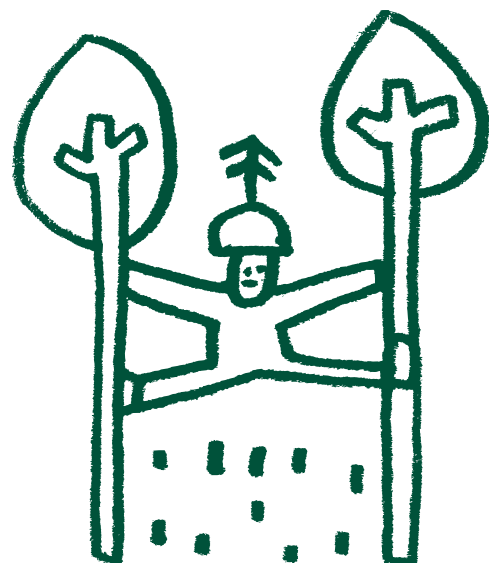
初秋の頃、福島ミドリ安全、津野町、地元インストラクター、高知県の53名が参加し、交流イベントが行われました。3日間に渡り、高知市の高知城、日曜市や、津野町の四国カルスト、四万十川源流点などを観光。バーベキューも行い、各所で地元の方々と親睦を深めました。また協定林にて記念すべき第1回目の間伐体験作業が行われ、参加者は苦労した後の森の明るさの変化に感激しているようでした。なお、研修期間における交通手段で発生するCO_2の一部(8t)を龍馬の森から生成したオフセット・クレジットによりオフセットしています。

①協定森林面積(累計) ②整備済森林面積 ③初回協定日 ④合計協定期間

32 土佐町

（株）朝日技研

地元の自然の恵みに恩返し

毎年楽しめるプログラムの交流会も

朝日・輝く森

①約84ha ②9.20ha ③平成22年6月21日 ④6年間

高知県土佐町の地元企業である朝日技研は、水門やクレーンを製造する会社で、吉野川が流れる美しい地元の森を育てようと、本協定を結びました。CO_2を出さない環境に優しい製品づくりにも取り組んでいます。

さわやかな秋、朝日技研・朝日協力企業会と家族、土佐町、同町森林組合、高知県から約75名が集まり、交流会が開かれました。まず土佐町町有林で11班に分かれてノコギリを使った間伐作業を行いました。鋼材を切るのはプロの朝日技研の皆さんですが、ノコギリの作業に悪戦苦闘しつつも、密植された杉をどんどん間伐。森の中が明るくなり、あちこちで歓声がこだましていました。汗を流した後は、地元土佐赤牛のバーベーキュー。原木しいたけの菌を木に駒打ちし、ほだ木を作ったり、もちつき大会をして交流しました。午後のプログラムは毎年変わり、年を追う毎に交流が深まっています。

33

土佐町

（株）駒井ハルテック

きれいな空気を浴びながら交流会

CO2を固定する木の橋も架けています

土佐町　風の森

①約48ha ②10.48ha ③平成22年7月2日 ④3年間

駒井ハルテックは、明治16年創業の橋梁・鉄骨などの設計や施工を手掛ける企業です。大型構造物の設計、施工時に予め環境に与える影響を調査して最小限にしたり、自然素材の木製の橋で製造時の省エネルギーに努めるなど環境保全に取り組んでいます。

中秋の頃、駒井ハルテック社員とご家族、土佐町、同町森林組合、高知県嶺北林業振興事務所、高知県から約50名が参加し、交流会が行われました。木をふんだんに使って新築した同町役場を見学した後、町有林内の里山公園、ふるさと再生の森へ移動。 嶺北林業振興事務所職員から間伐意義の説明を受け、森林組合の方の指導のもと、各班に分かれて周辺の森の間伐を行いました。間伐後のフリータイムではきれいな空気の中、木のブランコに乗ったり、ロープクライミングを楽しみました。夕食交流は地酒と地元土佐赤牛のバーベキュー。2日目は稲刈り体験、りんご狩りをし、参加者は土佐町の風を満喫したようでした。

①協定森林面積(累計) ②整備済森林面積 ③初回協定日 ④合計協定期間

34

四万十市

（株）清流メンテナンス

四万十の水環境を守る森

間伐の技も向上

清流の森

①約67ha ②12.80ha ③平成22年11月24日 ④5年間

清流メンテナンスは、生活に密着した水環境の保全を主軸に、排水処理施設の管理等を取り扱い、自然環境と生活環境の健全化をめざしています。同社は四万十市に事業所もあり、環境企業として社名にもある清流を守りたいと、最後の清流と言われる四万十川を大パノラマで一望できる絶景の中流域にある協定林を「清流の森」と名付けました。

秋深まる頃、四万十市西土佐半家(はげ)の協定林で清流メンテナンス社員、竹村総合建設、四万十市、高知県から約16名が参加し、間伐体験交流会が行われました。高知県幡多林業事務所職員による指導のもと、初めての方は斜面のヒノキ林での慣れない作業で息を切らしていましたが、毎年参加した人は間伐の技も向上し交代で協力し合い手鋸で各人3～5本の間伐作業を行いました。木が残存木の枝に掛からず一発で倒れた瞬間には大きな拍手が奥山に響き渡り地元の人々との交流を深め、協働の森にエネルギーを補給しています。

35

四万十市

浅野環境ソリューション(株)

CLEAN UP

地域との快適な場づくりをめざして

四万十の森、どんどん間伐進行中

アサノ Eco 〜木漏れ陽の森

①約93ha ②10.62ha ③平成22年11月24日 ④ 8年間

浅野環境ソリューションは「明るい未来の環境づくり」という企業理念のもと、平成15年より、四万十市にあるクリーンセンター西土佐の管理業務を行なっている縁もあり、パートナーズ協定を結びました。同社は「事業所と近隣との快適性の向上」や「薬品による環境影響を無くす」、「CO_2と廃棄物の削減、省資源、省エネの実行」などに取り組み、全従業員をあげて環境マネジメントを推進しています。

四万十市西土佐岩間の協定林で、浅野環境ソリューション、西土佐村森林組合、四万十市、高知県幡多林業事務所、高知県の計30名が参加し、間伐体験交流を行いました。体験場所も、今年は間伐作業が進み作業道を歩いてさらに奥の現場まで移動しました。樹齢約30年、直径20cmほどのヒノキを前に、皆さんの目つきは真剣そのもの。今回で３回目の体験は天候がやや曇ではありましたが、はじめて雨のない間伐体験に。夢中で次々と木を伐採し、普段経験することのない作業で社員同士の絆も強まりました。また、夜の懇親会も大いに盛り上がり、地域との交流の輪も広がりました。

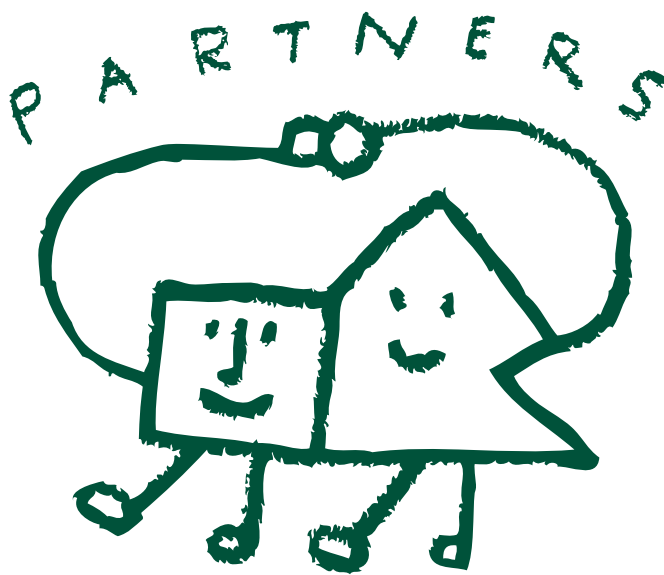
①協定森林面積(累計) ②整備済森林面積 ③初回協定日 ④合計協定期間

36

梼原町

一般社団法人 四国クリエイト協会

自然との暮らしの豊かさの調和と

地域との交流もたいせつに育てます

梼原　交流の森

①約19ha ②2.95ha ③平成22年11月25日 ④ 6年間

四国クリエイト協会は、四国建設弘済会を前身とし、建設事業がめざす自然と暮らしの豊かさの調和を大切にしながら、建設に関わる様々なサポート、防災、地域活性などの事業を行っています。同社は前社名時代に、四国カルスト県立自然公園の程近くの自然林をフィールドに梼原町とパートナーズ協定を結びました。

秋も深まる頃、四国クリエイト協会、梼原町、同町森林組合職員、川井地区住民、高知県より約60名が参加し、梼原町川井地区上部の協定森林で間伐作業交流会を行いました。作業はチェンソーを使用した本格的なもの。半数以上の方が初めての体験で、おっかなびっくりしながらも、森林整備の大変さ、大切さを実感しました。間伐作業の後はイタドリ、田舎こんにゃく、猪汁など、地元女性が丹精込めて作った普段味わえない料理を堪能しました。環境貢献のみならず、今後も多くの方との交流が深まっていく予定です。

37
佐川町

高知西ロータリークラブ

牧野富太郎博士を生んだ森

奉仕の精神を受け継ぐ

高知西ロータリークラブ創立40周年記念の森

①約10ha ②7.72ha ③平成22年11月26日 ④3年間

「国際ロータリー」は世界初の奉仕クラブ団体で、社会奉仕と国際親善を目的としています。クラブは159の国に3万近くあり、会員数は120万人以上。本協定は高知西ロータリークラブ創立40周年記念事業として締結されました。平成25年12月に、高知西ローターリークラブと佐川町の間で、新たにパートナーズ協定を結びました。

深秋の頃、交流会が行われ、高知西ロータリークラブ会員と家族、佐川町、高知県より約30名が参加しました。まず、青山（せいざん）文庫で牧野富太郎博士の生誕150年記念特別展、次に青山文庫からほど近い青源寺を訪問しました。昼食会では協定森林整備の報告があり、食後は佐川地質館の見学を行いました。入口には恐竜の動く模型があり、子供さんは大喜び。最後は町内のりんご園でりんご狩りを楽しみました。協定林の視察は雨のため中止になりましたが、佐川町に理解を深め、意義ある交流会になりました。

①協定森林面積(累計) ②整備済森林面積 ③初回協定日 ④合計協定期間

38
高知市

太平洋セメント（株）

セメントも高度技術で資源循環

森を通じた交流を大切にしています

太平洋を育む土佐山の森

①約72ha ②14.58ha ③平成23年3月24日 ④5年間

太平洋セメントは、セメント製造工程の特性を活かした高度な廃棄物処理サービスや、火力発電所と連携した環境関連商品の開発など、資源循環型社会の構築に貢献しています。また高知市土佐山に同社の鉱業所があり、地元の方との交流を深めることを目的に本協定が結ばれました。

立春の頃、太平洋セメントの社員、土佐山の地元の方など総勢約50名で交流会が行われました。参加者はまず３班に分かれ、土佐山菖蒲の協定森林で間伐体験。ノコギリで木を伐採しました。市で新調したノコギリの切れ味が非常に良かったようで「昨年とは大違い」と評判も上々。指導にあたった高知市森林組合の職員から間伐についての基礎知識や最近の木材価格について等の解説を聞きながらスムーズに間伐が進みました。間伐体験終了後は菖蒲ふれあいの里に移動し、地元菖蒲地区の関係者が参加し地元の女性グループ花菖蒲の方々が作ったできたての豆腐や手作りこんにゃく、猪汁やおでんをいただきながら、にぎやかに地元の方々との交流を楽しみました。

39
いの町

ニッポン高度紙工業（株）

企業とまちの原点を守りたい

土佐和紙も水がいのち

ニッポン高度紙工業・輪の森

①約55ha ②28.13ha ③平成23年10月14日 ④3年間

いの町では昔から良質な紙の原料である楮、ミツマタ等の植物と仁淀川の美しい水に恵まれ、土佐和紙づくりが行われて来ました。ニッポン高度紙工業はコンデンサセパレータを扱うグローバル企業ですが、創業時の土佐和紙の加工がその原点。同町の水を守る手伝いをしたいと、パートナーズ協定を結びました。

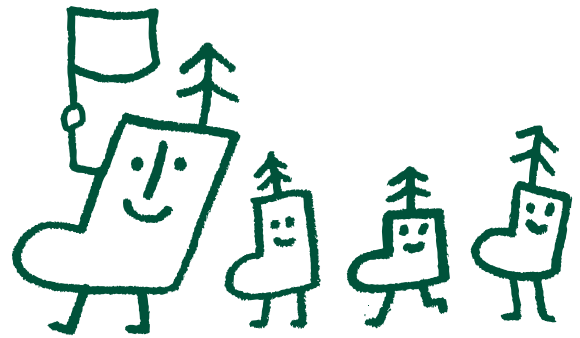
新緑の頃、いの町清水程野の協定森林で、ニッポン高度紙工業社員と家族、高知中央森林組合、高知県、いの町の約60名が参加、交流会が行われました。午前中は高知中央森林組合の指導のもと、込み入ったヒノキ林の中、ノコギリで間伐体験。太い木にも奮闘しました。その後、昨年の交流会で間伐した木をチェーンソーで輪切りにする鍋敷きづくりを行い、子供たちは初めての音に驚きながらも興味津々な様子でした。昼食は、地元女性グループによる季節感あふれる創作田舎料理を堪能しました。午後は生地から炭火で焼いて作るバームクーヘンに挑戦。完成した形に笑いが起きるなど、和やかな交流会になりました。

①協定森林面積(累計) ②整備済森林面積 ③初回協定日 ④合計協定期間

40
津野町

クラブツーリズム（株）

心も体も豊かな旅を

美しい風景を観光資源に

クラブツーリズム四万十源流の森

①約98ha ②21.36ha ③平成24年3月7日 ④2年間

クラブツーリズムは「旅を通じて自然保護」の考えのもと、環境にやさしく快適な観光地づくりに取組んでいます。津野町は四万十川の源流点、四国カルストなど自然観光素材も豊富な土地であり、協定後は協定林をコースに盛り込んだ環境ツアーも展開しています。

初夏の高原のさわやかな空気の中、クラブツーリズム、同パートナーズ会、津野町、同町森林組合、高知県より約40名が参加し、交流会が行われました。四国カルストの頂上に佇む津野町天狗荘を出発し、車で3分ほどの協定林で5つの班に分かれ、津野町森林組合の方々の指導のもと、ノコギリでヒノキの間伐を行いました。皆さん慣れない作業に汗をかきながらも、交代で協力して次々に木を切り倒し、そのたびに森が明るくなりました。作業は大変でしたが、参加者は充実した表情でした。最後には、これからも協定の活動を通じて共に高知県の観光を盛り上げていこうと、改めて心をひとつにしました。

41
高知市

井上石灰工業（株）

天然資源で空気の浄化も

いつも積極的に森に関わっています

井上石灰 130周年の森

①約33ha ②4.52ha ③平成24年3月30日 ④3年間

石灰石生産量全国2位の高知県で総業130年を越える井上石灰工業は、天然資源である石灰を扱う企業として高い環境問題意識を持っており、以前から高知市職員を中心としたボランティア団体「こうち森林救援隊」との間伐に手を挙げるほど熱心な企業です。また石灰には水や空気を浄化する特性があり、同社の石灰も浄化槽やゴミ焼却場で役立っています。

これ以上ない秋晴れの中、井上石灰工業、高知市、高知市森林組合、高知県から34名が参加し、高知市鏡横矢地区、平家の滝付近の協定林で間伐体験イベントが行われました。現場は込み入ったスギの森で、非常に暗く感じました。日頃から間伐をされているということで、ノコギリの扱いに慣れている方が多い様子。作業が進み、森が明るくなっていきました。汗を流した後は、木工作業体験。地元の工芸店の方の指導のもと、踏み台などを作りました。お昼は地元の食材を使ったお弁当と豚汁で温まり、午後も山あいのすがすがしい空気と暖かな日差しの中、ゆっくりとした時間を過ごしました。

①協定森林面積(累計) ②整備済森林面積 ③初回協定日 ④合計協定期間

42
黒潮町

四国コカ・コーラボトリング（株）

海のまちからハッピーを

初めての間伐に子どもたちの目もキラキラ

四国コカ・コーラ 黒潮町　協働の森

①約42ha ② - ③平成25年5月20日 ④3年間

四国コカ・コーラボトリングは、地域社会の一員として「ハッピー四国」を掲げ、環境保全活動にも積極的に取組んでいます。同社はこの度、日本全国の7ヶ所の採水地からできた製品「い・ろ・は・す」の売り上げの一部を、47都道府県の水資源を守る活動に寄付する「地元の水応援プロジェクト」の一環として、黒潮町では初となるパートナーズ協定を締結しました。

山も色づきはじめる頃、初の交流会が開かれ、四国コカ・コーラボトリング、黒潮町、幡東森林組合、漁協、高知県から60名が参加しました。黒潮町熊野の協定林のヒノキは硬く、参加者からは、慣れない活動に、“手が疲れた～”との声もありましたが、実際に間伐体験をして、健全な森づくりの大変さを実感するよい機会になったと思います。子どもたちへの環境学習では小学校と山の土をそれぞれペットボトルに入れ、保水力の違いを感じてもらいました。昼食は土佐湾沿いの黒潮一番館に移動し、その道何十年の漁師のおんちゃんの指導の下、自分で作った藁焼きタタキのおいしさに感動。これからもハッピーな交流が深まっていきそうです。

馬路村

（株）損害保険ジャパン
日本興亜損害保険（株）
日本興亜おもいやり倶楽部

励まし合いながら丸太切り
一体となって持続可能な社会の実現へ

「損保ジャパン・日本興亜いきいき共生の森」交流活動

①約15ha ②- ③平成25年11月7日 ④3年間

損保ジャパンと日本興亜損保は、平成26年9月1日に合併し、「損保ジャパン日本興亜」になります。これまで、それぞれ高知県で取組んできた協働の森づくり事業も、両社で新たに馬路村と協定を結びました。新会社の戦略目標の1つである「CSR・環境リーディングカンパニー」への挑戦に向け、この協定事業を通じて生物多様性の重要性や自然の恵みへの感謝の気持ちを地域の皆さまと一緒に考えていきたいと思います。

協定締結式を終えた3日後の秋深まる頃、馬路村馬路に約80名が集い、交流活動を行いました。当日はあいにくの雨模様で、間伐やユズの収穫体験が中止になってしまいましたが、ゲーム形式の丸太切り大会やチェンーソー体験を実施し、楽しみました。小さいお子様を連れた参加家族らは杉の間伐材の薄板を編む「かなば編み」を体験し、コースターなどを編みました。最後にみんなで馬路温泉特製の弁当を食べ、お土産のユズの香りとともに帰路につきました。

まだまだ増え続けています！
森の力を支えるパートナー企業・団体

森の力パートナーズ企業・団体は、環境意識の高まりとともに年々増加し、現在“60”にも及びます。皆さんそれぞれの発想を活かした森づくりに取り組んでいます。

梼原町

一般社団法人 more trees
モア・トゥリーズの森

①約58ha ②58.40ha ③平成19年11月30日 ④6年間

モア・トゥリーズは音楽家の坂本龍一が中心となり細野晴臣、高橋宏幸、中沢新一、桑原茂一の5名の発起人および各界から100名以上の賛同人を得て、2007年に設立され、森の再生をはかりつつ、自然エネルギー社会への転換を進めるムーブメントをめざしています。モア・トゥリーズの森第一号となった梼原町では、切り捨て間伐でなく利用間伐を行い、有用活用できる健全な森を作っています。

中土佐町

一般社団法人 more trees
モア・トゥリーズの森

①約70ha ②55.51ha ③平成20年8月18日 ④14年間

モア・トゥリーズは梼原町に引き続き、2つめの森林協定を中土佐町で結びました。この協定により中土佐町の森林整備が行われたほか、地域の旬の食材に関する情報発信や、地域住民との協働によるオブジェの制作などの活動にも取り組んできました。四万十にちなんで、4万10トンのCO_2吸収を目標に、協定を継続しています。

北川村

奈半利川淡水漁業協同組合
奈半利川あゆを守る森

①約206ha ②50.62ha ③平成20年12月19日 ④9年間

安芸郡奈半利町の奈半利川淡水漁協は、漁協として協働の森事業発協定事例となりました。「奈半利川あゆを守る森」と命名した協定森林は同村宗ノ上の村有林。同漁協は奈半利川流域の鮎の保護に取り組んでおり、水を蓄え河川流量を調節する水源かん養の機能や濁水対策の観点からも森林保全に取り組む目的で北川村と協定を結びました。

四万十町

（株）四万十ドラマ
RIVER しまんとの森

①約15ha ②0.00ha ③平成21年1月27日 ④6年間

四万十ドラマは、平成6年に、当時の四万十川流域3町村（大正町、十和村、西土佐村）が出資して設立され、平成17年に完全民営化により株式会社化しました。道の駅「四万十とおわ」を運営し、道の駅として日本で初めてレジ袋を有料化。レジ袋やしまんと新聞ばっぐという商品の売り上げの一部を利用し、四万十の森を整備しています。

①協定森林面積（累計）②整備済森林面積 ③初回協定日 ④合計協定期間

（株）DMI

僕と地球を繋ぐ森

四万十町　①約103ha ② 55.81ha ③平成21年8月12日 ④5年間

DMIは、各種デジタルコンテンツ制作、マーチャンダイジング事業等を展開する制作会社。関連グループの代表、芝幸太郎氏が四万十町（旧十和村）出身であることもあり、「故郷への想い」をカタチにするべく、同町との協定を結びました。同社では間伐材製品の企画をはじめ、カーボン・オフセットとリンクしたデジタルコンテンツの開発など、自社が提供するさまざまなサービスにおいて、その環境意識が投影されています。今後もグループ各社との連携により、幅広い事業領域で、森林間伐事業と関連付いた、ユニークなサービスの展開が期待されています。

KDDI（株）

KDDI取扱説明書リサイクルの森

四万十市　①約63ha ②10.38ha ③平成23年9月6日 ④3年間

KDDIはCSRとして多様な取組みを行っており、携帯電話基地局の省エネ化のためCO_2排出量の少ない電力供給を行うための技術開発を行い、地球温暖化防止に向けて環境に配慮した活動を継続的に行っています。また、分厚かった取扱説明書をデジタル化したり再生紙製品を作り、森林資源を大切に活用しています。CSRの一環として、この度四万十市とも協定を結びました。

（株）内田洋行

内田洋行 四万十の森

四万十町　①約74ha ②25.03ha ③平成23年10月6日④3年間

内田洋行は、ICTを利用した場づくりを中核に、オフィス、教育、情報関連事業を行っており、本社ビル全館へのLED照明導入や、国産材を使用した「木づかい運動」など、持続可能な循環型社会を実現するため、企業活動全般において地球環境への負荷の低減推進をしています。そうした活動の一環として四万十町と協定を結び、協定林の国産材も場づくりに活かされています。

高知空港ビル（株）

高知空港ビル30th～空と人 出逢いの森～

香南市　①約88ha ②11.00ha ③平成23年10月11日 ④3年間

高知空港ビルは創立30周年を迎えるにあたり、社会貢献活動として「協働の森づくり事業」に協賛したいと、香南市とパートナーズ協定を締結しました。11haの間伐施業のほか、高知空港内におけるエスカレーター、空調機（手荷物受取場及び搭乗待合室）、テレビ（出発ロビー）の使用電力にかかるCO_2排出量を協定林によってカーボン・オフセットしています。

（株）四国舞台テレビ照明

geo.光の森

室戸市　①約9ha ② - ③平成25年7月2日 ④3年間

四国舞台テレビ照明は、舞台やテレビスタジオ、公共ホールにおける空間演出デザイン等の総合プロデュース、コンサルティング・設計・施工・保守を行っており、高知県の文化施設の指定管理者でもあります。地域貢献の意識が高い同社は室戸市とパートナーズ協定を締結しました。地域と密着した交流活動会も開催する予定です。

期間満了

三井物産（株）

いの町・三井協働の森

いの町　①約105ha ②18.00ha ③平成18年5月23日 ④6年間期間満了

全日本空輸（株）

私の青空　高知龍馬空港・梼原の森

梼原町　①約81ha ②34.62ha ③平成18年10月19日 ④6年間期間満了

トヨタ車体（株）

トヨタ車体グループの森

南国市　①約68ha ②38.50ha ③平成19年2月9日 ④3年間期間満了

一青 窈

FORESTYO

中土佐町　①約10ha ②7.00ha ③平成19年12月3日 ④3年間期間満了

（株）ハート

四万十ハートの森

四万十町　①約73ha ②15.30ha ③平成20年1月24日 ④3年間期間満了

旭食品（株）

旭食品　RISSIの森

高知市　①約31ha ②18.37ha ③平成21年2月10日 ④3年間期間満了

（株）損害保険ジャパン

損保ジャパン・いきいき共生の森

馬路村　①約61ha ②40.04ha ③平成19年1月24日 ④6年間期間満了

日本興亜おもいやり倶楽部（日本興亜損害保険（株））

日本興亜・畑山の森林

安芸市　①約172ha ②38.05ha ③平成19年8月6日 ④6年間期間満了

①合計協定森林面積 ②整備済森林面積 ③初回協定日 ④合計協定期間

森の話をしよう

日本でいちばん森林率が高い県は？

A. 高知県です。

日本という国土の67％が森のみどりの島国のなかで、高知県は県土の84％が森。日本でいちばんの森林率です。その豊かな森から川が生まれ、人々の暮らしとともに流れ、海の生き物も守ってきました。

一方、かつての大掛かりな植林で、高知の森は65％が人工林と全国2位。安い外国の木材に押され、国産材の価値が下がったことや、過疎や高齢化が原因で、手入れが行き届かない森も多くあるのです。

間伐ってなに？

A. 木を間引いて、森を元気にする作業です。

木々が成長すると木々が混み合い、隣どうしで枝葉が重なりあうようになり、お互いに成長を阻害してしまいます。そこで、成長の悪い木を間引くことで森により多くの光が降り注ぐようにし、森を元気に大きくしていきます。この作業を間伐と呼びます。

間伐を行わない森林では太陽光がほとんど差し込まないため、暗く、土地がやせて下草が生えず、下枝が枯れ、森がもともと持っている力を発揮できなくなってしまいます。

森が元気になるとどうなるの？

A. わたしたちも元気になります。

元気な森は光合成をたくさん行うので、二酸化炭素をたっぷり吸収し、温暖化防止にもつながります。太陽光があたることで、地表植物が増加し生物の多様性も保全されます。また、しっかりとした根は、土砂崩れを防いでくれます。降った雨が森林の土に浸透する量も多くなることで、洪水を防ぎ、水も浄化されるためきれいな生活水を供給してくれます。私たちは森林からより多くの恩恵を受けることができるようになるのです。

日本一の木 in 高知

高知県には日本一の大木が３本もあります。四万十市の「もみの木」には村を魔神から守った３人の侍が祀られています。いの町にはヤブツバキとして日本一の「シャクジョウカタシ」が、大豊町には３千年前スサノオノミコトが植えたと言われる「杉の大杉」があります。

525,600時間

林業は畑作農業に比べると、気の遠くなるほど時間と労力がかかります。地ごしらえ、植林、下刈り、つる刈り、枝打ち、間伐と、長いスパンで工程を踏み、収穫（主伐）までは50～60年。時間に換算すると、約525,600時間もかけて、木は私たちに届きます。

森のエビフライ

森を歩いていると、突然エビフライと遭遇することがあります。その正体は、松ぼっくりの芯。松ぼっくりの笠の間にある種はリスやムササビにとってはご馳走で、食べた後は本物のエビフライにそっくり。エビフライのある森は、自然が豊かな証拠です。

環境先進企業の皆様へ。

To the Ecological enterprise.

日本一の森林県・高知の森林再生を通じ、
CO_2吸収量の増加や
水源かん養等の国土保全
地球環境の保全に貢献できます。

日本一の森林県、高知からのご提案

森林率日本一。高知県は、県土の84%が森林に覆われた森林県です。
このかけがえのない財産を守るため、私たちは森林環境の保全対策に積極的に取り組んできました。
平成17年度からスタートした「協働の森づくり事業」。
環境先進企業の皆様・市町村等・高知県との間で「協働の森パートナーズ協定」を締結し、手入れの行き届かない森林の再生に取り組んでいます。
高知県では、京都議定書に準じて算定した森林の「CO_2吸収証書」も全国で初めて発行しました。
「協働の森づくり事業」は、こうした企業のCSR活動にも応えうるものと自負しています。

日本一の森林県・高知県の森を共に守り、育てていただける皆様のご参加をお待ちしています。

協働の森パートナーズ協定

- 協定期間は3年以上
- 協賛金は企業様からの提案額が基本
（高知県としての基本額は別途準備しています）
- 「パートナーズ協定書」の締結が事業のスタート

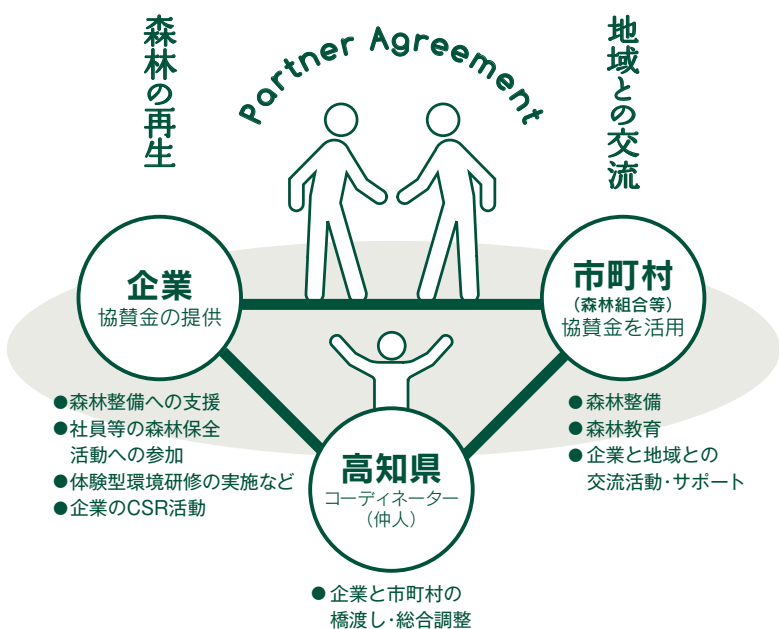
1 毎年度、「CO_2吸収証書」を発行します。

2 皆様の森林活動を高知県と地元が全力でサポートします。

3 協定森林での取組を高知県から全国発信。活動報告も充実。

4 シンボルロゴは使い道自由。森の名前も自由です。

5 木の名刺台紙をご提供します。

環境先進企業の皆様と協働で
CO_2の吸収量増加や保水力向上など
持続可能な森林環境経営による
環境共生を目指します

森づくりを通じて環境先進企業の皆様と
高知県・市町村及び
地域住民とのつながりを深め
活発な交流を目指します